

令和5年7月19日
釧路開発建設部

釧路川の水辺をみんなで楽しもう

～夏休みの子どもたちと瀬文平橋上流左岸で生き物観察会を行います～

釧路開発建設部では、釧路川流域の子どもたちが川の生きものたちのくらしぶりや水質を調べる「釧路川の水生生物調査（生き物観察会）」を瀬文平橋上流左岸で夏休み中の標茶町内の児童生徒の協力を得て実施しますので、お知らせします。

この調査は、日本の主要な河川で実施している全国水生生物調査で川の生きもの（カワゲラ類等）が生息しているかどうかで水質状況を簡易的に判定します。

身近な自然環境に接することで、川に親しみ、河川環境への関心を高めてもらうことを目的に昭和59年度から調査を続け、調査結果は水生生物による水質調査結果として公表されており、釧路川の環境を把握する資料として活用されています。

記

- 日時：7月26日（水）10：00～11：30 水生生物調査
11：30～12：30 水辺の楽校祭（お楽しみイベントあり）
- 場所：標茶町栄（瀬文平橋上流左岸）
- 参加者：標茶町内の小学生、中学生、釧路湿原川レンジャー
- その他：雨天の場合は8月8日（火）に延期します。
また、8月8日が雨天の場合は標茶町開発センターで開催致します。

※詳細については別紙をご覧ください。

釧路川の水生生物調査の活動状況は、釧路開発建設部ホームページに掲載していますので御覧ください。<https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend00000074bd.html>

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 釧路河川事務所

副所長 石山 弘道 電話：0154-21-5500（内線 3621）

河川課長 三佐川 剛昌 電話：0154-21-5500（内線 3630）

釧路開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/>



[別紙]

開催場所



実施内容

調査項目

- ・川の状況調査
 - 水温、川幅、流速、透視度等
- ・簡易水質調査
 - pH、COD、アンモニウム態窒素
 - リン酸態リン(低濃度)、DO
- ・水生生物調査
 - 生物調査、生物観察
 - 河川に生息する水生生物のうち、水質に係る指標性が高い29種を指標生物として、採集した水生生物から、4階級で水質の状況を判定します。
- ・魚類等の調査
 - 魚類等採取、魚類等観察

【参考】水質階級と指標生物

銚路川では、きれいな水(水質階級 I)の指標生物(カワゲラ類)がよく見られます。

きれいな水(水質階級 I)の指標生物

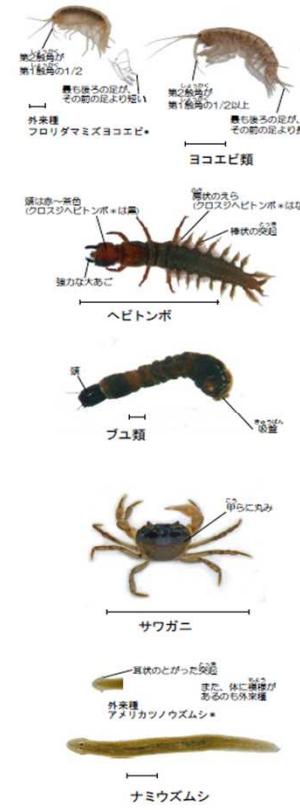
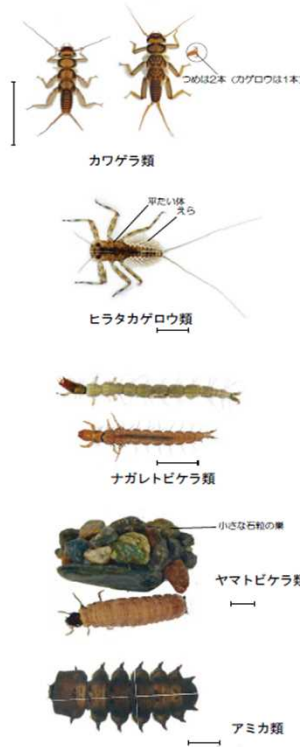
カワゲラ類
尾は2本で、胸の下面や腹の末端にふさ状のえらがあるものが多い。足のつめは2本。炭流の石の間や、流れがゆるやかで落葉などがたまってるところにすんでいる。
●まちがえやすい生物
カワゲラ類とまちがえやすいが、足のつめが2本あることで区別される。

ヒラタカゲロウ類
足のつめは1本で、尾は長く2本。目がついており、体全体が平たくカレイのような形。腹の両側に木の葉状の大きなえらがある。流れの速いところの石に体を密着させて生活している。
●まちがえやすい生物
カワゲラ類とまちがえやすい。

ナガレトビケラ類
体は細長いイモムシ状で、足は3対。腹の色はうすい。頭と前胸が固くなっているが、他はやわらかい。肉食の種類が多く、上流の水温の低い、きれいなところにいる。流れの速いところに多い。幼虫は網や巣をつくらずに石の上や間を歩く。

ヤマトビケラ類
体は太くいもむし状で、足は3対で短い、体色は茶色で、頭と前胸は固くて茶色。砂つぶでできた量の甲のような巣をかついでいるのですぐ分かる。巣の下面には頭と尾部を出す穴がある。

アミカ類
頭には2本の触角があり、ロボットのような形をしている。腹に6個の吸盤があり、その吸盤で急流の岩の上にとっかかりしている。



線の長さは実物の大きさの目安です。
*のついでている生物は、よく似ていますが指標種(水質判定に使う水生生物)ではありません。

ヨコエビ類
体は左右に平たく、背中が丸まった小さなエビのような形をしている。からだの色はオレンジ色や茶褐色のものが多い。主に上流の石の下や水中にたまった落葉の間にすんでいることが多い。

ヘビトンボ
大きな強いアゴをもち、腹に糸のような横にのびる長い突起があり、その付け根にえらがある。肉食性で他の水生昆虫をえさにする。川底の石の下などにいる。

プユ類
体はこげ茶色で、腹の後方が太くなっている。尻に吸盤があり、流れの速い川底の石の表面や草にとっかかりしている。親になって人の血を吸うのは5種類くらいである。

サワガニ
甲羅の大きさは2~4cmで、色は赤みがかったものから青みがかったものまでいろいろあり、比較的浅いところの石の下にいる。腹帯の太いのがメス、細いのがオス。本州で淡水域で一生活を過ごすサワガニはこの種類だけである。

●まちがえやすい生物
海に近い川では、海からモズガニが上がってくるが、モズガニは、ハサミに毛がある。

ナミウズムシ
体色は茶色、ねずみ色、黒色。体はやわらかく、切れやすい。また、体には節(体節)がない。プラナリアともよばれ、石の上をすべるようになる。●まちがえやすい生物
ヒル類に似ているが、ヒル類は前後の腹に吸盤があり、シャクトリムシのように動く。また、ナミウズムシに似た外来のウズムシが分布を広げている。

国土交通省HP(全国水生生物調査に参加しよう！)

https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000183.html

国土交通省HP(川の生きものを調べようー水生生物による水質判定ー「調査テキスト」)

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/suisituhantei/text.pdf

このように調査します。



水の温度は何度かな？

☞ ・ 天気、気温、水温、川幅、水深、流速、川底の状況、水の濁り、臭い、透視度などの記録をします。



この水生生物は何かな？

☞ ・ 水生生物の採取、観察をします。



どんな魚がすんでいるのかな？

☞ ・ 魚類の採取、観察をします。



川の水はきれいなのかな？

☞ ・ 川の水のpH、COD、DO、アンモニウム態窒素、リン酸態リンなどをパックテストにより簡易調査をします。